

防衛大学校本科第4期及び理工学研究科第3期学生 卒業式における学校長式辞（平成9年3月23日）

防衛大学校本科第4期及び理工学研究科第3期の学生諸君は、本日をもって所定の全課程を終了し、4年及び2年にわたる小原台生活に別れを告げることになりました。この間、防衛大学校における学生生活の中で、諸君が自らの青春を燃焼し、幾多の収穫と思い出を持って巣立って行かれるその事に対して、私は、本校の教職員、指導教官一同と共に、心からお祝いを申し上げます。

本日のこの栄えある式典に、國務御多端の折りにもかかわらず、御臨席を賜りました橋本内閣総理大臣^{注(1)}、伊藤衆議院議長^{注(2)}、久間防衛庁長官^{注(3)}をはじめ国会議員各位、また阿川弘之氏、田中学位授与機構長^{注(4)}をはじめ内外多数の来賓各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

また、卒業に至るまでの間、防衛庁自衛隊の関係者各位、官民の諸機関並びに在日米軍、各国大使館等から寄せられた御指導・御協力に対しましても、併せて厚くお礼申し上げます。

更にまた、遠路をも省みず本式典に御参列賜りました御両親・御家族の皆様方に対しましては、今日までの御協力に深く感謝申し上げますとともに、立派に成長された御子女の卒業を心からお祝いするものであります。

さて、405名の本科卒業生諸君 - この中には25名の女子学生が含まれておりますが - 顧みれば平成5年の春4月、諸君は希望と緊張感に胸を震わせながら、桜花爛漫のここ小原台の門をくぐられた日のこ



第6代学校長 松本 三郎

注(1) 橋本龍太郎

注(2) 伊藤宗一郎

注(3) 久間章生

注(4) 田中郁三

とを覚えていることでしょう。また入校後もしばらくは、慣れない学生舎生活や規律ある生活に戸惑い、将来幹部自衛官として、その生涯を防衛の職務に捧げようという決意に若干の不安を感じたことでしょう。

しかし、それからの4年間、厳しい団体生活の中で勉学や訓練に励み、幾多の苦しい障害を乗り越え、試練に耐え、諸君は大きく逞しく成長いたしました。かくして、幹部自衛官となるべき決意と資質は揺るぎないものとなり、今や胸を張って堂々と卒業していく諸君を、私は自信を持って送り出すことができます。

タイ王国6名、マレーシア2名、フィリピン共和国2名の留学生諸君に対しましても、心から祝福を贈るものであります。異なる文化の下で、日本の友人と寝食を共にしつつ学んだこの貴重な経験は、必ずや将来諸君が誇り得る豊かな財産となるであります。諸君のそれぞれの母国に帰っての大きな活躍を期待しています。

さて卒業生諸君は、これから陸・海・空それぞれの幹部候補生学校において、初級幹部としての専門教育を受けるわけですが、諸君の幹部自衛官としての修業は、まさにこれからが本番であります。

自衛隊の創立者であり、本校生みの親でもある吉田茂元首相は、防衛大学校第1期生の卒業式祝辞で、

独立国の国民として国の独立程大事なものはなく、この独立を守る事こそ、国民としての名誉であり、誇りであり、この誇りが愛国心の基礎をなすものである。国民に独立を愛し、独立を守る決心なくんばその国の存在はあり得ない。この決心が一国の興隆繁栄を来たすのである

と述べておられます。在任中そして退任後と合わせて7度も本校を訪れ、学生の成長を心から楽しみにしておられました。また同氏は、本校本部庁舎の前庭に「居於治不忘乱（治に居て乱を忘れず）」の石碑を残されています。それは、人間の歴史には災害は避け難く起こる。しかし、平和が永く続くと人はとかく災害への備えを忘れがちになることを戒め、「永い平和の中で静かに戦争に備える忍耐が必要である。永い沈黙の勇気が大切である」ことを強調されたものであります。これより職業として国の防衛を担うことを志す諸君にとっては、とりわけ心に留めるべき言葉であり、不断の精進に努められることを期待するものであります。

諸君が入校以来しばしば耳にしてきたように、本校における教育目的の根幹をなすものは、「真の紳士淑女にして、真の武人」を育成することにあります。このことは、自衛官としての確固たる使命感を自覚し、

防衛の専門分野での知識・技能・体力を修練すべきことはもちろん、一社会人として、幅広い教養と豊かな人間性を併せ持つべきことを意味します。防衛大学校の教育は、単に視野の狭い、特殊な戦争技術者の養成を意図したものではなく、広く国家社会の一員として、与えられたその職責を全うし得る資質の涵養を目的としていることは論を待ちません。第1期生以来1万7千人を越える諸君の先輩達は、こうした防衛大学校における教育の成果を、一旦緩急に備えての日常の地道な勤務訓練の中で、更にPKO活動や様々な災害の救援活動等の中で、黙々たる内にも見事に発揮してくれております。国民に信頼される、また国際社会に信頼される自衛隊の道を一步一步着実に築いてきてくれたといえましょう。

こうした先輩達の業績を受け継いで、これから諸君の活躍する21世紀の世界は、あらゆる意味で複雑化、多様化が進み、内外の情勢は益々不透明で予測し難くなることは必至です。そこでは、いかなる任務に就くにせよ、広い視野と高い視点に立った創造的で柔軟な思考力と的確な判断力、そして豊かな国際感覚が求められることとなります。新しい防衛計画の大綱が成立し、これをふまえた中期防衛力整備計画が発足したばかりの大きな節目に卒業を迎えた諸君に対し、幹部自衛官としての誇り高い任務を全うすべく、不断の研鑽と、気品に満ちた「一人間としての修業」を怠らぬよう強く望む次第であります。

次に、理工学研究科61名の卒業生諸君 - この中にはタイ王国からの留学生が3名含まれていますが - 諸君に対し一言申し述べます。諸君は、理工学に関する大学院レベルの専門的知識と技能を修得し、研究すべく2年の歳月を本校で過ごしました。この間、頭脳の充電を図り、将来への大きな飛躍の基盤を培う貴重な体験を積んだのであります。最近の科学技術の著しい進歩は、軍事面においても装備の高性能化、複雑化などの質的变化を生み、軍事戦略及び戦術に大きな変革をもたらしていることは周知の事実であります。今後諸君は、それぞれ新しい任務に就かれることとなりますが、広い視野に立って一層の研鑽に努められ、益々重要になりつつある自衛隊の科学技術分野における発展向上に尽力されるよう、切望するものであります。

さて、諸君の小原台生活の幕は、いままさに閉じられようとしております。これから先、諸君のあとに続く後輩達の模範となるように、いかなる部署、いかなる境涯にあっても、学生綱領の謳う「廉恥、真勇、礼節」を座右として育った防大卒業生としての誇りを持って堂々と前進し

て下さい。そして、陸・海・空それぞれに進むべき道は分かれようとも、同期生同士その友情と団結を更に強め、お互い力を合わせて、祖国日本の輝かしい将来と国際社会の平和のために身を挺して行かれんことを、お別れに当たり心から祈念して私の式辞といたします。

諸君、卒業おめでとう。